

1. 外部評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970101354
法人名	有限会社 ドリームデベロップ
事業所名	ディーディー学園前 Ⅲ・Ⅳ
所在地	〒631-0026 奈良市学園緑ヶ丘1丁目9-12 (電話) 0742-40-4867
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	2008年1月30日

【情報提供票より】 (平成20年1月15日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	12 人	常勤 3人 非常勤 9人 常勤換算	8.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,850 円	その他の経費(月額)	800 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(240,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 2,300 円			

(4) 利用者の概要 (平成20年1月15日 現在)

利用者人数	12名	男性	2名	女性	10名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	67 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西奈良中央病院、阿部クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地の一角にあり、周りに田畑も残っていて四季が楽しめる。周りの町並みに全く違和感のない普通の2階建て民家2軒をグループホームに活用している。運営理念は「家庭的な環境のもとで地域の方々と共に自立した生活を営むことを支援していく」であり、心やすらぐマイホームを目指している。本来1ユニット9名のところを6名入居なので、職員2人介助で夕方ゆっくり入浴できるなど手厚い介護体制となっている。食事は朝食は手作りで、昼食・夕食は業者のクックチル方式を採用した食材を使っている。健康管理については、かかりつけ医の往診が隔週にあり、訪問看護師にも気軽に相談できる体制である。安全管理もしっかりされているが、手すりやデッキなどを作ってベランダや庭に気軽に出入されると、より民家の良さが活かされる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度の改善点については、職員全員で検討されている。フェースシートの作成、ケアプラン用紙の充実、内外の苦情窓口の明記など改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 法人として振り返りはできているが、職員一人ひとりが現状を振り返りケアの点検をしているとは言いがたい。各ユニット毎にケア点検するよい機会である。自己評価の過程で、職員一人ひとりにとって実際に質向上に取り組むための動機づけとなるような話し合いが望まれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	初回運営推進会議を2月14日に予定している。会議では、運営推進会議の目的・当施設の概要紹介・地域の方からの要望について話し合われる予定である。住民にホームの様子を報告し、認知症の理解や地域との交流のきっかけとなるよう期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	以前は年4回ホーム便りを出していたが、現在はホームページに切り替え作成中である。金銭出納状況は毎月郵送で報告しているが、暮らしぶりや健康状態などは定期的には報告していない。定期的に報告することで利用者と家族の繋がりを大切にしていこう望まれる。今後は家族のEメールを利用するのも良いのでは? サービス内容説明書に苦情相談窓口を明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会しているが、地域の行事がないので会合には出ていない。ごみ置き場の掃除・回覧板を届けに行くなどしている。散歩に出たときは挨拶を交わし、近隣の公園でホーム独自の運動会・祭りを実施している。地域のボランティアを招くなどふれあう機会をふやし、なじみの関係を築いていくことが望まれる。

2. 外部評価結果報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「当施設は閑静な住宅街における民家を活用し、家庭的な環境のもとで、利用者が地域の方々と共に、自立した日常生活を営むことが出来るよう支援するものとする」である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員採用時研修や日常で理念を意識した指導をしており、理念を色紙に書いて目につくよう会議室などに掲示している。地域密着の理念については日々の介護に反映していくよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しているが、地域の行事がないので会合には出ていない。ごみ置き場の掃除・回覧板を届けに行くなどしている。散歩に出たときは挨拶を交わし、近隣の公園でホーム独自の運動会・祭りを実施している。	○	地域とはまだ挨拶程度の付き合いである。地域のボランティアを招くなどふれあいの機会をふやし、なじみの関係を築いていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の改善点については、職員全員で検討されており、いくつか改善されている。今回の自己評価については、法人として振り返りはできているが職員一人ひとりが現状を振り返りケアの点検をしているとは言いがたい。	○	各ユニット毎にケアサービスを点検するよい機会である。自己評価の過程で、職員一人ひとりがケアを振り返り、サービスの質の向上に取り組むための動機づけとなるような話し合いが望まれる。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	初回運営推進会議を2月14日に予定している。市 役所職員・地域包括センター職員・民生委員6 名・自治会役員・利用者家族2名で構成され、11 名全員参加予定である。	○	会議では、運営推進会議の目的・当施設の概要紹 介・地域の方からのご要望について話し合われる 予定であるが、住民にホームの様子を報告し、認 知症の理解や地域との交流のきっかけとなるよう 期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	職員は奈良市介護福祉課窓口相談や手続きのためよく 行っており、電話連絡もよくしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状 態、金銭管理、職員の異動等について、家 族等に定期的及び個々にあわせた報告をし ている	以前は年4回ホーム便りを出していたが、現在は ホームページに切り替え作成中である。金銭出納 状況は毎月郵送で報告しているが、暮らしぶりや 健康状態などは定期的には報告していない。	○	暮らしの様子などを定期的に報告し、利用者と家 族の繋がりを大切にすることが望まれます。 今後は家族のメールアドレスを聞いておき、E メールを利用するのも一つの方法かと思われま す。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている	サービス内容説明書に苦情相談窓口を明示してい る。面会時や電話連絡時に家族の希望や意見など を気軽に話してもらえよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動や 離職を必要最小限に抑える努力をし、代わ る場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮 をしている	7年間常勤職員の交代はない。人手不足の時、他 ユニットへ応援に行くことはあるが、ユニット間 の職員異動も今のところはない。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット主任など常勤職員は外部の研修に参加しているが、ホーム内での研修・会議が少ないため、職員全体のレベルアップにつながっていない。	○	職員全体の学びの場として、様々な課題の検討や外部研修会の報告など定期的な研修・会議が実施されることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の「奈良市西部ネットワーク会」が平成19年4月から参加者50名で始まっている。引き続きテーマを決め講師を招いて月1回実施されており、交流・勉強のため参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族との面接時に十分話をお聞きした上で、相談しながら進めている。希望があれば仮入所もできる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理・ケーキ作りの得意な方がいて教えてもらったり、高校野球の話・百人一首を教えてもらったり、ピアノを弾いてもらったりと利用者からいろいろ学び、楽しむことが多い。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	平成19年10月からフェイスシートを作成し、生活歴や思いを書きとめている。ケアプラン作成時には家族や本人の希望を聞きとりしている。毎日の様子は個別記録に記入しており、本人の日々の思いをよく把握している。	○	今までの生活が途切れないよう、生活歴などを詳しく記入してほしい。フェイスシート、ケアプラン、毎日の個別記録などを一冊にまとめて個人ファイルを作成しておく、フェイスシートへの書き足しや日々の気づき・情報の書き込みなどがしやすくなると思われます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	平成19年10月より、本人や家族の介護に対する希望などを聞きとり、日々の生活上の問題点を反映したケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	訪問看護記録（週1回）、医師の往診（月2回）の療養上の注意、日々の個別記録などはそろっているがそれについて話し合うカンファレンスが実施されていない。	○	訪問看護師、介護職員、家族で月1回カンファレンスが実施されることが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空き室が一室あるので、ショートステイの転用を申請したが許可されなかった。通院は家族・ヘルパーにしてもらい、職員の付き添いはない。	○	本人や家族の要望に応じて柔軟な支援が望まれる。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人・家族の希望を優先し、かかりつけ医を決めている。県立病院に通院希望される利用者がおられ、家族と連携をとりながら受診を続けていただいた。また、ホームかかりつけ医と24時間連携の体制がとれており、隔週で往診もあり、状態の変化には対応してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所契約時に「重度化及び看取りに関する指針」について説明しており、利用者および家族の意思確認をしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った声かけ、支援がなされている。調査時、居室を見せていただく時も職員はきちんと利用者に説明し、承諾を得ていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、利用者から「今日の予定はどうなっているか？」と聞かれるので、本人の希望を聞きながら一日楽しんで過ごせるよう柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は手作りで、昼食と夕食は業者の配食サービス（真空パックの食材を温めて盛り付け）を利用している。四季折々のメニューで便利ではあるが家庭的な味とはいいがたい。職員は弁当を持参しており、利用者と一緒に食事していない。おやつやイベントの時は一緒に食べている。	○	食事は一番家庭的な暮らしの場面である。昼・夕食に手作りの一品を加えたり、利用者の好みを聞きながら、職員も一緒に食べるなどの取り組みが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回夕方から入浴タイムとなっており、希望者は夕食後にも入浴できる。二人介助で一人ずつゆっくり安全に入浴できる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫の得意な方に雑巾を縫ってもらい、洗濯物干し、洗濯物たたみも積極的に手伝ってもらっている。午前中はテレビ体操・散歩、午後は百人一首・おやつタイムなどそれぞれに楽しく過ごしてもらえるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中の散歩が日課になっている方も一人おられるが、ADLが落ちてきているので、全員が希望通りの外出はできていない。	○	体調に配慮しながら2、3日に一度でも外出できるよう職員体制を工夫してほしい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面を考慮して玄関、ベランダ出入り口、庭への出入り口すべてに鍵をかけている。	○	一度「鍵をかけることの利用者にもたらすデメリット」について話し合うことが望まれる。せめてベランダや庭へは安全に出られるよう手すりやデッキを作るなど工夫してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施し、課題を把握し、災害時に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた業者の配食サービスを受けているが、それぞれの利用者の食べた量や水分量が記録されていない	○	水分量の確保は健康上大切なので、個別記録にひと目で分かるよう工夫して記入してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の住宅なので家庭的で居心地はよい。居間には利用者のプロフィールが貼ってあり、季節の飾りつけもされている。夜間は安全のため、各部屋にセンサーを取り付けている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	収納に便利なクローゼットがあり、ベッドの周りには広々している。各自、仏壇・写真・三味線などなじみのものを持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。また二人部屋で夫婦仲良く暮らせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。